

自然環境への影響

当該地は、昭和42年に県が整備した園地及び昭和54年にみなかみ町が整備した駐車場である。当該地に環境省直轄のインフォメーションセンターが建設されるに当たり、老朽化した路面等を再整備する予定で、これに合わせて今回周辺施設を事業施設として把握するもの。新たな自然改変もないことから、風致に与える影響は小さい。



谷川岳インフォメーションセンターについて

- ・当該地に環境省が谷川岳インフォメーションセンターを建設しており、一体的に利用される予定。
- ・公園事業としては谷川岳休憩所として決定済み
- ・公園利用者への情報発信施設として適切な情報提供を行うとともに、谷川地域のエコツーリズムを推進する拠点としての機能強化が期待できる。

上信越高原国立公園 米子線道路（歩道）

決定

路線距離：3.5km

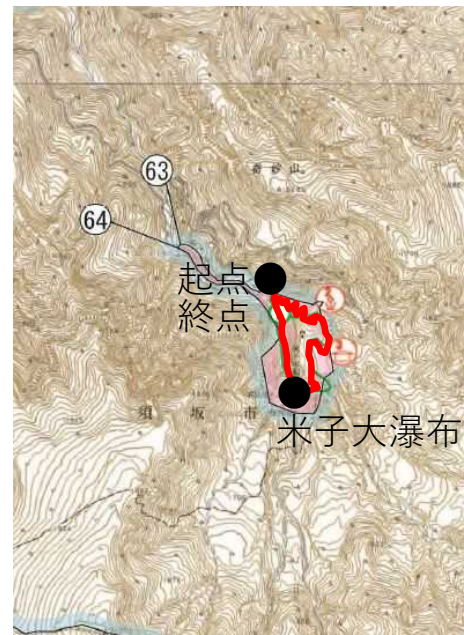
執行者（予定者）：須坂市

第2種特別地域（民有地）

●位置図



●公園計画図



歩道から米子大瀑布を望む

- 米子大瀑布を周回する探勝歩道。
- 米子大瀑布の鑑賞者に主に利用される。紅葉の時期を中心に利用者が多い。また、根子岳、浦倉山への登山道が分岐している。
- 起終点付近に駐車場がある。

米子線道路（歩道）決定位置図



事業規模

路線距離：3.5km



起終点近くの歩道



不動滝

- 米子線道路（歩道）として計画されている全区間を決定するもの。
- 事業執行予定者は須坂市。

既存施設の把握（歩道）

執行予定者：須坂市

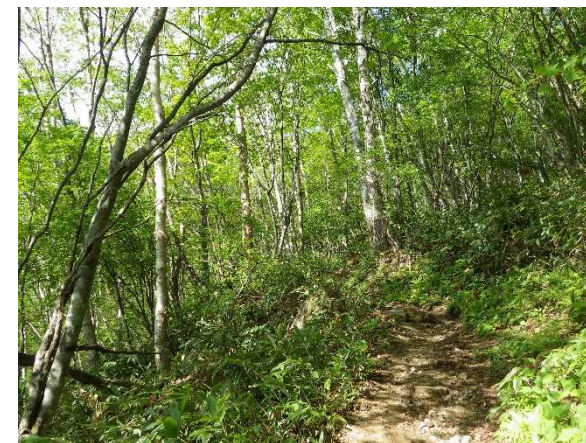
- 公園を安全かつ快適に利用するため米子線道路（歩道）事業として、既存の歩道を把握するもの。新たな整備等の予定はない。



沢に架かる橋



四阿



歩道

自然環境への影響

既存の歩道を把握するものである。橋、四阿、公衆便所などが整備されている。管理者を明確にすることで、適切な維持管理が図られることになるため、利用者の安全、快適性の向上に繋がるとともに、適正な利用が推進されることで、歩道周辺の植生などの自然環境保全にも繋がることが期待される。

上信越高原国立公園 七味温泉宿舎

変更

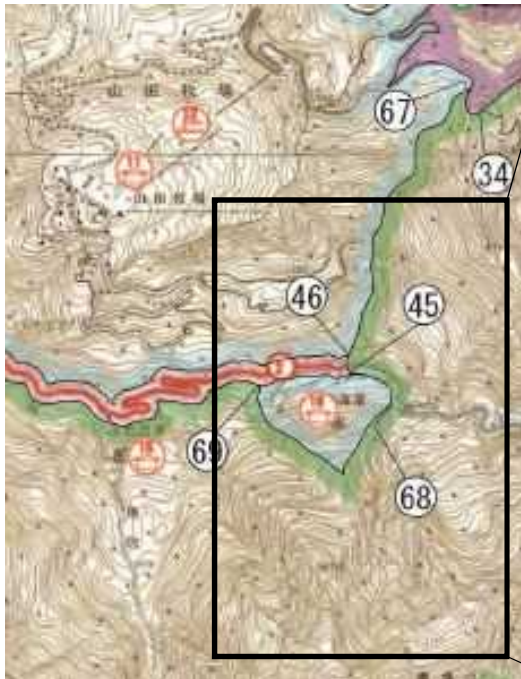
区域面積：規模なし→3.0ha

最大宿泊者数：規模なし→600人／日

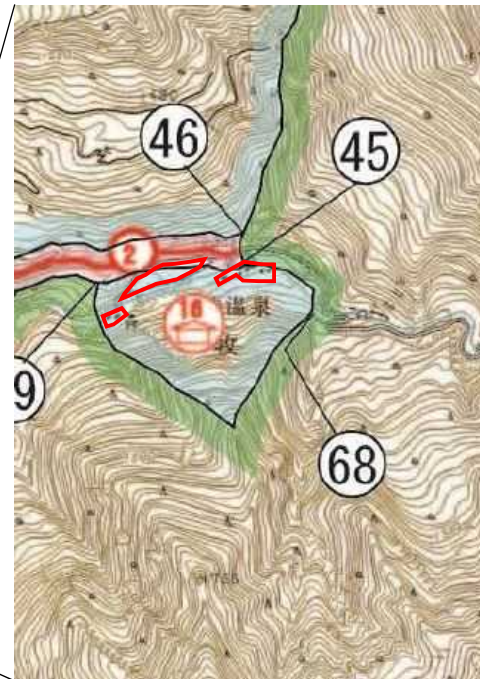
執行者（予定者）：民間

第2種特別地域、普通地域（民有地）

●位置図



●公園計画図



既存施設

○当該地域は松川渓谷沿いに位置している。湯治や日帰りの温泉利用や松川渓谷の自然散策などに利用されている。紅葉の時期を中心に利用者が多い。

七味温泉宿舎変更位置図



- 既存施設を把握するもので、新たな整備は行わない予定。現在は、宿舎と日帰り入浴施設がある。
- 執行者は民間。

既存施設の把握（宿舎）

区域面積：規模無し→3.0ha

最大宿泊者数：規模なし→600人／日

執行者（予定者）：民間

自然環境への影響

- 既存の施設を把握するものである。新たな整備は行わない予定。
- 事業規模を決定することで、利用者数に見合った施設が整備されるとともに、快適な利用が確保され、また、景観の維持が図られる。
- 排水は処理したものが放流されており、自然環境への影響は最小限に抑えられている。

上信越高原国立公園 志賀高原野営場

決定

区域面積：4.9ha

最大宿泊者数：300人/日

執行者（予定者）：民間

第2種特別地域（民有地）

●公園計画図



●位置図



熊の湯スキー場（奥）及び
熊の湯・硯川地区の宿舎

- 志賀高原野営場は、志賀高原の熊の湯地区にあり、志賀草津線道路（車道）（国道292号）から約300m西側に入った、笠ヶ岳の東斜面の標高約1,700mに位置する。
- 冬季に熊の湯スキー場として利用される。事業地周辺に温泉を有した宿舎があり、通年利用されている。また、笠ヶ岳登山線道路（歩道）の起点であり、自然探勝路線道路（歩道）及び志賀山回遊線道路（歩道）の起点に近い位置にある。

志賀高原野営場決定位置図

事業規模

区域面積：4.9ha

最大宿泊者数：300人/日



- 熊の湯地区では、宿舎の敷地の一部及び熊の湯スキー場の夏季利用を図るものとして野営場を整備する。
- 事業規模は、熊の湯地区では宿舎敷地及びスキー場敷地の緩傾斜地4.9haである。
- 施設整備については、熊の湯地区では今後整備するが、当面は既に造成された平坦地を使用する予定。

キャンプサイト等の整備

執行者（予定者）：民間

- 公園を安全かつ快適に利用するため、野営場として必要最小限の施設を整備するもの。



熊の湯地区（整備予定地）

自然環境への影響

宿舎の敷地内又はスキー場敷地内に施設を整備するため、自然植生地の新たな開発はない。また、汚水は適切に処理する予定である。

公園事業に位置づけることで、適切な維持管理が行われるため、植生保護などの自然環境保全にも繋がる。

以上のことから周囲の自然環境へ与える影響は最小限に抑えられると考えられる。

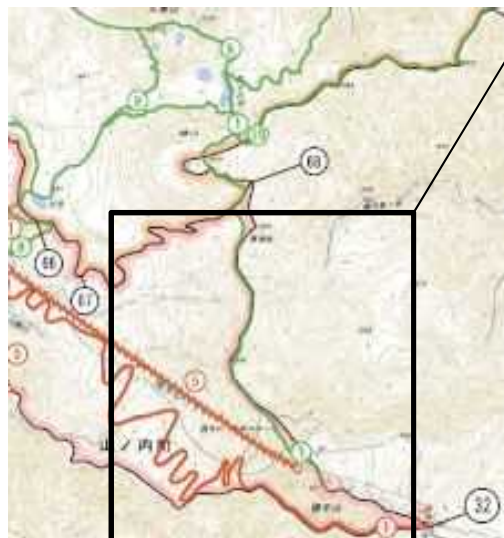
上信越高原国立公園 横手山視園地

廃止

区域面積：
執行者：山ノ内町、民間

第2種特別地域（民有地）

●位置図



●公園計画図



休憩施設



駐車場とドライブイン

○志賀草津線道路（車道）（通称：国道292号）沿いで、横手山の斜面中腹の標高約2,050mにある園地である。志賀高原地域のほか、北信五岳(ほくしんごがく)や北アルプスの雄大な展望に優れ、ドライブインや休憩施設がある。また、横手山へのスカイレーターの駐車場にもなっている。これらのことから利用者が多い。

廃止理由

本地域では、これまでの団体スキーや団体旅行という観光形態を見直し、集団施設地区内の多様な環境を活かしたより魅力的で滞在日数の多い、様々なアクティビティを楽しむことができる旅行形態の変化を模索しているところである。園地事業についても、各地区の環境の多様性を活かし、日々変化し多様化する利用者のニーズに志賀高原集団施設地区全体で対応しようとしているところである。これらの動きは、集団施設地区の上質化にもつながり、国立公園の利用者の快適な利用環境の提供に資するものである。このためには、集団施設地区内の園地を「志賀高原園地事業」という一つの事業として一体的に管理し、流動的な利用者のニーズに柔軟に対応できる体制を整える必要がある。以上のことから、集団施設地区内で園地事業として執行されてきた個々の園地事業を廃止する。

自然環境への影響

廃止後、既存の施設等はすべて新たに事業決定を行う「志賀高原園地」で使用し、解体等を行わないため、廃止に伴う自然環境への影響はない。

中部山岳国立公園 神の田圃園地

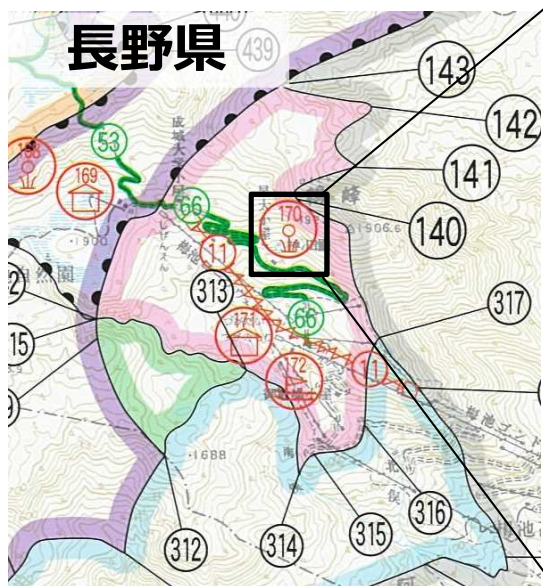
決定

区域面積：2.5ha

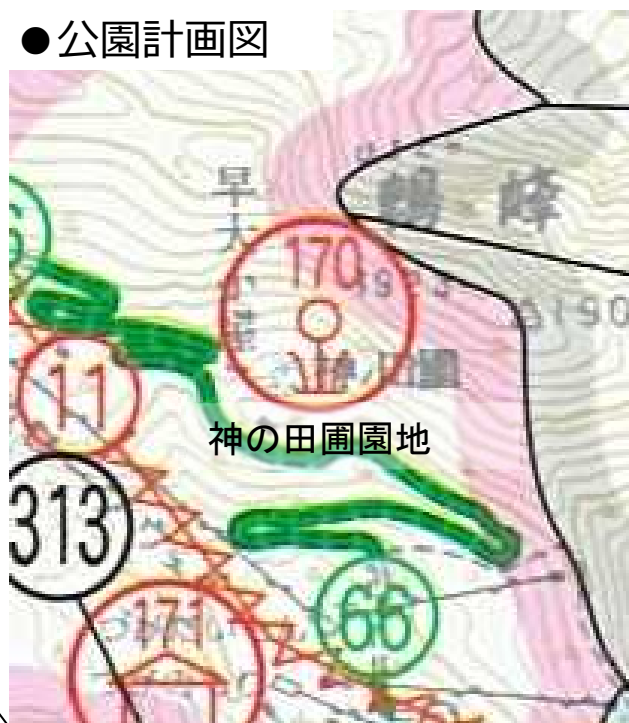
執行者（予定者）：小谷村

第2種特別地域（小谷村柵池地区共有地）

●位置図



●公園計画図



神の田圃湿原の木道



湿原に点在する池塘

○当該地の近くに、柵ノ森柵池線道路（歩道）があり、歩道から約50m程度入った場所に、神の田圃湿原が広がっている。湿原には過去に長野県が整備した木道があり、現状でも少数の利用がある。

神の田圃園地決定区域図



事業規模 区域面積：2.5ha



- 昭和53年に長野県が歩道事業として整備した木道を、今回決定により園地事業として把握する。
- 既存木道の延長は約170mで、幅0.6m～1.2mである。
- 柵ノ森柵池線道路（歩道）は柵池高原ビジターセンターなどが整備された柵池自然園と柵池ロープウェイの駅舎がある柵ノ森を結ぶ路線で、柵池ロープウェイを利用せずに、散策する利用者の利用ルートとなっている。

既存施設の把握（木道、ベンチ）

執行者（予定）：小谷村

- 高層湿原の踏み荒らしを防止するため、木道やベンチが整備されている。



ベンチ



木道

自然環境への影響

現地には昭和53年に長野県が整備した木道があり、現状でも利用可能ではあるが、小谷村では当該木道を今後、再整備したいと考えている。再整備の工法はまだ決定していないが、既存のルートを踏襲することとされており、湿原の新たな改変は行わないこととされ、自然環境及び風致へ与える影響も少ないと考えられる。

中部山岳国立公園 岳沢野営場

決定

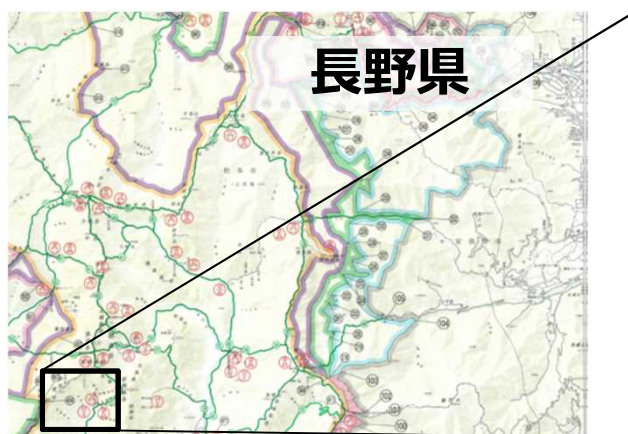
区域面積：0.5ha

最大宿泊者数：200人/日

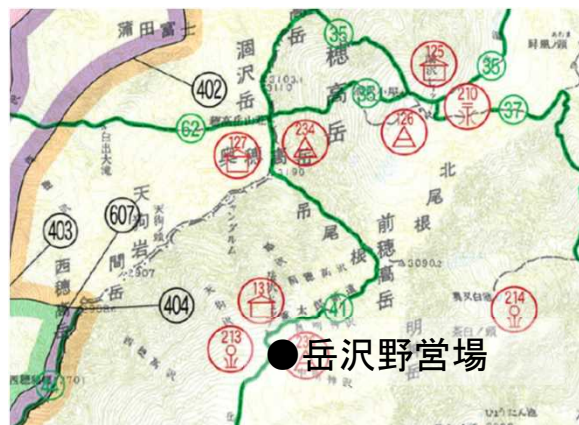
執行者（予定者）：民間

特別保護地区（国有地（林野庁））

●位置図



●公園計画図



- 標高約3,000mの奥穂高岳と涸沢岳間の鞍部に位置し、高山帯の岩稜部にあり植生は非常に乏しい。
- 主な利用形態は北アルプス登山を目的とした登山拠点（テント泊利用）である。
- 付近に岳沢宿舎事業が民間により整備されている。

岳沢野営場決定区域図



事業規模 区域面積：0.3ha



既存施設の把握（野営場）

執行者（予定）：民間

- 北アルプス登山ルートの手掛かりとして、野営場が整備されている。トイレなどの付帯施設は、付近の山小屋（岳沢小屋）で併用している。
- 中部山岳国立公園南部地域の拠点野営場が事業把握され野営場の区域を明確化することにより、野営指定地外への幕営など無秩序な利用を防ぐ効果が期待される。よって、周囲自然環境への負荷の軽減が図られる。

中部山岳国立公園 槍ヶ岳八合目野営場

決定

区域面積：0.5ha

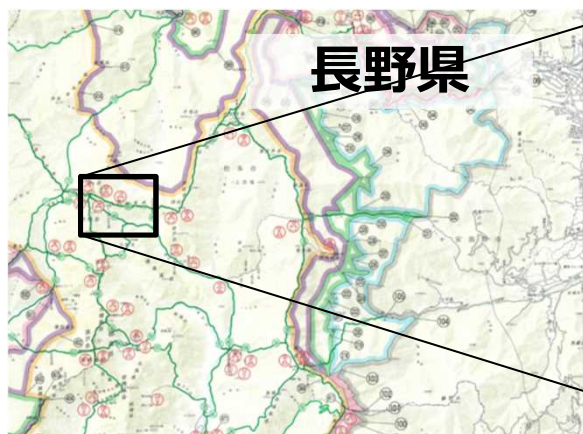
最大宿泊者数：200人/日

執行者（予定者）：民間

特別保護地区（国有地（林野庁））

●位置図

●公園計画図



- 標高約2,800mの槍ヶ岳八合目付近に位置し、高山帯の岩礫地にあり植生は乏しい。
- 主な利用形態は北アルプス登山を目的とした登山拠点（テント泊利用）である。
- 付近に槍ヶ岳八合目宿舎事業が民間により整備されている。

槍ヶ岳八合目野営場決定区域図



事業規模 区域面積：0.5ha



既存施設の把握（野営場）

執行者（予定）：民間

- 槍ヶ岳等縦走登山ルートの特定点として、野営場が整備されている。トイレなどの付帯施設は、付近の山小屋（殺生ヒュッテ）で併用している。
- 土地所有者と山小屋との間の契約により野営場として整備されてきた既存箇所。
- 中部山岳国立公園南部地域の拠点野営場が事業把握され野営場の区域を明確化することにより、野営指定地外への幕営など無秩序な利用を防ぐ効果が期待され、周囲自然環境への負荷の軽減が図られる。

中部山岳国立公園 蝶ヶ岳野営場

決定

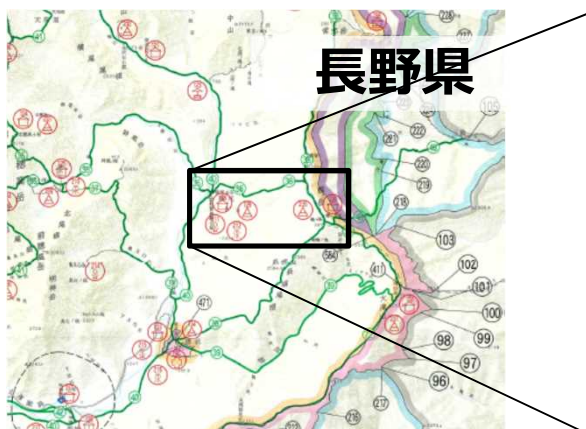
区域面積：0.5ha

最大宿泊者数：200人/日

執行者（予定者）：民間

特別保護地区（国有地（林野庁））

●位置図



●公園計画図



- 標高約2,600mの蝶ヶ岳に位置し、高山帯の岩礫地及びハイマツ帯にあり植生は乏しい。
- 主な利用形態は北アルプス登山を目的とした登山拠点（テント泊利用）である。
- 付近に蝶ヶ岳宿舎事業が民間により整備されている。